



平成25年度 果樹情報 第2号

(平成25年4月12日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (4月上旬：果樹研究所)

4月上旬の平均気温は1半旬が8.8℃で平年より0.4℃高く、2半旬が10.1℃で平年並みの状況でした。この期間の降水量は50.0mmで平年の228%でした。

2 土壌の水分状況 (4月11日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが1.8、深さ40cmが1.6、深さ60cmが1.7で、適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」は、開花直前の状況です。
- (2) なし「幸水」の展葉は、4月10日で平年より7日早く、「豊水」は4月8日で平年より4日早い状況でした。
- (3) りんご「つがる」の展葉は、4月6日で平年より5日早く、「ふじ」は4月2日で平年より8日早い状況でした。
- (4) おうとう「佐藤錦」の発芽は、3月23日で平年より8日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月20日	3月26日	3月31日	—	—	—
	ゆうぞら	3月19日	3月27日	3月30日	—	—	—
なし	幸水	3月29日	4月3日	4月10日	4月10日	4月17日	4月18日
	豊水	3月28日	3月31日	4月9日	4月8日	4月12日	4月16日
りんご	つがる	3月20日	3月27日	4月1日	4月6日	4月11日	4月14日
	ふじ	3月22日	3月29日	4月3日	4月2日	4月10日	4月13日
おうとう	佐藤錦	3月23日	3月31日	4月5日	—	—	—

注) 平年は1981～2010年の平均値。

4 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合、もも「あかつき」の開花始めは4月12日頃で平年より3日早く、なし「幸水」の開花始めは4月21日頃で2日早く、りんご「ふじ」の開花始めは4月25日頃で2日早いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表2 開花予測日

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
もも	あかつき	4月24日	4月15日	4月12日	4月11日	4月12日
なし	幸水	4月28日	4月23日	4月21日	4月18日	4月23日
りんご	ふじ	5月1日	4月27日	4月25日	4月22日	4月28日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成25年4月5日発表)より

今後の気温経過は、1週目（4月6日～4月12日）は平年より高い確率が50%、2週目（4月13日～4月19日）は平年並または低い確率がともに40%、3～4週目（4月20日～5月3日）は平年並の確率が40%となっています。

5 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底しましょう。また、下草は地温の上昇を図るため、4月中旬以降はこまめに5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれあり）。空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保に努めましょう。

作物別凍霜害等気象災害防止対策

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、御活用ください。

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/tousougai_taisaku_h250328.pdf

果樹の現在の生育ステージ

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに、農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/stage_h250404.pdf

(2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とします。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用してください。

6 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご腐らん病

本病の発生が認められる園では、展葉初期の防除を徹底してください。また、伝染源となる枝腐らん、胴腐らんは確実に削り取るかせん除し、削り取り部や切り口等は塗布剤により保護しましょう。なお、伐採した被害枝幹、および削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分してください。

イ ももせん孔細菌病

前年発病が多かった園では薬剤防除を徹底しましょう。特に開花直前の防除は必ず実施し、感染防止を図りましょう。また、春型枝病斑の症状は開花後頃から見られるので、疑わしい枝枯れは見つけ次第せん除しましょう。

ウ ナシ黒星病

本病の最も重要な防除時期は開花期前後であるため、開花直前に本病に有効なE B I剤のいずれかを必ず散布しましょう。また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫害

ア 主要害虫の防除時期

所内における主要害虫の誘殺時期は平年に比べやや早い状況です。そのため、ミツバチやマメコバチなどを導入する場合には、訪花昆虫に影響の強い有機リン系殺虫剤等の散布時期に十分注意しましょう。

イ モモハモグリガ

今後、気温が平年並みに推移した場合、誘殺盛期は4月21日（平年に比べ4日早い）と予測されます。本種による突発的な被害を回避するため、落花10日後の防除を確実に行いましょう。薬剤は、アブラムシ類の防除を兼ねてネオニコチノイド剤を散布しましょう。

ウ リンゴコカクモンハマキ（もも、なし）

昨年、本種の発生が多かった園や、現在、花や新葉に食害が見られる園では、落花直後にI G R剤またはB T剤を散布しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定
（演算方法は三角法 平成25年4月10日現在）

	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代	第1世代	越冬世代	第1世代
今後の気温予測	誘殺盛期	防除適期	誘殺盛期	防除適期
2℃高い	4月18日	4月24日	5月13日	5月26日
平年並み	4月21日	4月28日	5月21日	6月4日
2℃低い	4月25日	5月3日	5月31日	6月15日

起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。